

鋼 橋 技 術 研 究 会

防 音 構 造 研 究 部 会

昭 和 6 3 年 度 報 告 書

平 成 元 年 3 月

1. はじめに

防音構造研究部会では、昭和60年度に鋼橋技術研究会が発足して以来、鋼橋の弱点と考えられる騒音問題を取り上げて活動を続けてきている。これまでの活動内容を大雑把に顧みると、部会がスタートした60年度は、文献の調査・収集および文献抄録集の作成に終始し、61年度に入って、話題提供者による講演とこれに関するディスカッションを重ねつつ、研究部会として具体的に引き上げ得るテーマを模索し始めた。62年度は、年度当初に研究部会のメンバーを3つのW/Gに分けて、その中で各テーマ毎の具体的な活動を行なった。各W/Gのテーマは、設計マニュアルの作成、騒音データの収集およびアクティブコントロールの検討である。これらの活動において、設計マニュアルのイメージを煮詰めるとともに、部会として公表可能な2橋の実測値を得ている。また、漠然とその効果に期待が持たれていたアクティブコントロールについても、現状レベルの技術的評価を下すことができた。

以上のような経緯から、本年度は、設計マニュアルの作成と騒音データの収集を、当研究部会の最終的な成果とするものとして、前年度のW/G活動を一部再編成して活動を継続してきた。これらのまとめについては、作業の進捗状況を鑑みて一応平成元年度末を目標としているため、以下に述べる63年度報告はその中間報告にあたる。